

「農業技術の匠」の一覧

(敬称略・都道府県順)

NO.	都道府県	「農業技術の匠」の氏名			所属等
		氏名	性別	年齢	※『 』については経営している農場(会社)名
1	北海道	佐藤 稔	男	53	北竜町うるち米・もち米生産組合 組合長
2	北海道	片岡 弘正	男	64	江別麦の会 会長
3	青森県	山内 齊	男	65	(青森県弘前市)
4	岩手県	下川原 重雄	男	55	『株式会社 下重農園』 久慈地方ヤマブドウ振興協議会
5	宮城県	小野寺 幸人	男	66	日本一美味しい米づくり研究会 ・物見生産組合
6	山形県	菅原 孝明	男	57	三川地域有機農業推進協議会
7	福島県	立花 孝全	男	71	『タチバナペーパーウェア株式会社』
8	栃木県	大山 寛	男	57	JALしもつけ栃木トマト部会 顧問
9	群馬県	遠藤 藤一	男	76	JA館林キュウリ部会
10	埼玉県	小樫 敏行	男	70	『安行小梅園』
11	埼玉県	金子 美登	男	60	『霜里農場』
12	千葉県	若梅 健司	男	79	山武郡市農協第3出荷センター 園芸部抑制トマト部会
13	千葉県	江口 金男	男	58	JA東葛ふたば手賀青果物出荷連合会 会長
14	神奈川県	吉田 義一	男	64	『屋号「吉忠」』 馬絹花卉生産組合
15	長野県	千野 正雄	男	73	『千野果樹園』
16	新潟県	今井 守夫	男	66	コシヒカリ共和国 大杉新田生産組合・JA魚沼みなみ有機米部会

17	富山県	きよと かずふみ 清都 和文	男	53	富山県花卉球根農業協同組合
18	石川県	ぶつた こうじ 佛田 孝治	男	73	『株式会社 ぶつた農産』 JAののいち
19	岐阜県	つかもと みのる 塚本 實	男	80	東美濃栗振興協議会 技術顧問
20	愛知県	かわい きよはる 河合 清治	男	67	JA愛知みなみ輪菊部会特秀菊グループ
21	三重県	はしもと りきお 橋本 力男	男	56	『堆肥・育土研究所』 菜遊ファーム 代表、NPO有機農業技術会議 理事
22	京都府	しもおか きゅうごろう 下岡 久五郎	男	67	『久五郎茶園』 JA京都やましろ宇治田原町茶業部会
23	広島県	なかがわ かずよし 中川 和義	男	60	『中川農園』 広島県指導農業士会 会長 広島市農業振興協議会 会長
24	香川県	ゆたに たかゆき 湯谷 孝行	男	67	『有限会社 湯谷温室』 JA香川県中央地区本部ハウスみかん部会
25	愛媛県	やまさき しょうきち 山崎 章吉	男	59	JAえひめ中央温室みかん研究部会
26	福岡県	かんきょういなさくけんきゅうかい 環境稲作研究会 (代表藤瀬新策)	男	58	『環境稲作研究会』
27	佐賀県	くまもと よういち 熊本 洋一	男	73	『熊本洋一梨園』
28	長崎県	よしむら ひとし 吉村 人志	男	59	『(有)ワイルドプランツ吉村』 長崎県花き振興協議会草花部会 会長

8	栃木県	おおよま ゆたか 大山 寛	こうのきだか <高軒高ハウスによる土耕栽培のハイワイヤー誘引技術の開発> 肥培調節管理技術、軽量台車、直接定植技術などを独自に開発して、高軒高ハウスを利用した、土耕栽培でのハイワイヤー誘引技術によるトマト栽培の技術体系を確立。
9	群馬県	えんどう とういち 遠藤 藤一	おうら たてばやし <邑楽館林キュウリ産地における栽培技術の確立> 竹を骨組みとした竹幌式ビニールハウスによる越冬栽培法を確立するとともに、ウォーターカーテンや地中熱交換方式などの省エネ技術を組み合わせた栽培技術体系を確立。
10	埼玉県	おびつ としゆき 小樫 敏行	しょうひん <小品盆栽の生産技術を確立 ~今日の小品盆栽ブームの先駆け~> 台木の最も地際に芽を一つしか持たない短い穂木を接ぐ、小品盆栽用の接ぎ木方法を確立するとともに、植木で使用されている取り木技術を盆栽用に改良。
11	埼玉県	かねこ よしのり 金子 美登	<有機農業の実践(自然エネルギー循環型)> 牛糞、生ゴミ、落ち葉、剪定枝チップ等を利用した堆肥生産、少量多品目栽培を基本として多様な昆虫相、アレロパシー(他感作用)等の利用による病害虫防除、太陽光発電に加え、バイオガス施設による液肥とガスの自給などを独自に組み合わせた自然エネルギー循環型有機農業の技術体系を確立。
12	千葉県	わかうめ けんじ 若梅 健司	<抑制トマト「ぶっ倒し栽培技術」確立による収穫期間の延長> 降霜の予想される数日前に立ち栽培のトマトを定植床の上に倒し、トンネルで被覆し、保温、出荷期間を延長する技術。トンネルはU型パイプの利用と複状Uターン仕立てで独自に考案。
13	千葉県	えぐち かねお 江口 金男	ぼうず しらす <ねぎの周年出荷体系における「坊主不知ねぎ」の有効利用技術> 地域の特産の坊主不知ねぎの優良系統の維持・選抜技術を開発するとともに、系統の特性を活かした肥培管理方法、ウイルス再汚染防止方法、土づくりの励行等安定的に生産、出荷できる栽培方法を確立。
14	神奈川県	よしだ よしかず 吉田 義一	しおり <ハナモモ等「枝折物」の調整・出荷技術> 切花用結束機を利用して手作業と同様に結束を行う方法を確立。また、通常は、堅穴、横穴などで作る開花促進のための蒸かす室を作業性の高い地上に作るなどの省力技術体系を確立。

15	長野県	ちの まさお 千野 正雄	<p>＜高品質なモモを多収穫できる斜立仕立の開発＞ <small>しゃりつしたて</small></p> <p>独自の発想により、すべての樹を南向きにして受光や風通しを均一にして果実品質の高位平準化を可能にする斜立仕立(南向きに一本の主幹を斜めに立ち上げ、下部に垂主枝2本を置き、やや下向きの側枝を配置)を開発。</p>
16	新潟県	いまい もりお 今井 守夫	<p>＜環境負荷軽減型有機無農薬栽培による安全・安心で 高品質・良食味な南魚沼コシヒカリ栽培技術の確立＞</p> <p>成苗ポット移植の利用により移植時期を遅らせ、高温登熟を回避する高品質・良食味生産体系を確立するとともに、マガモ、米ぬか、機械除草を組み合わせた効率のよい無農薬除草技術体系を確立。</p>
17	富山県	きよと かずふみ 清都 和文	<p>＜高品質・大規模球根生産機械化一貫体系の確立と オリジナル品種の育成＞</p> <p>チューリップ球根生産において、堆肥散布と緑肥すき込みによる地力減耗対策を確立するとともに、植え付けから掘り取り、水洗、乾燥、調整出荷まで大規模生産に対応した機械化一貫体系を確立したほか、付加価値の高い新品種を選抜、育成。</p>
18	石川県	ぶつた こうじ 佛田 孝治	<p>＜気象条件に左右されにくい品質の高い米生産技術＞</p> <p>超薄播きによる健苗を疎植栽培する技術とともに、堆肥投入による地力を活かした栽培技術により近年の高温などの気象条件に左右されにくく、品質の高い米生産技術を確立。</p>
19	岐阜県	つかもと みのる 塚本 實	<p>＜くりの長結果母枝を利用した超低樹高栽培技術の開発＞ <small>ちょうけつかぼし</small></p> <p>くりは一般的に植え付けから15年程度過ぎると生産性が低下するが、15年以上経過した樹の樹高を低くすることにより、高品質、安定生産に加え、省力化も実現する超低樹高栽培技術を確立。</p>
20	愛知県	かわい きよはる 河合 清治	<p>＜きくの直挿し栽培技術の開発＞ <small>じかざ</small></p> <p>従来、きくは挿し床に挿し芽を行い、そこから発根した苗を定植するのに対して、本圃に直接挿し芽を行う省力効果の大きい直挿し栽培技術を確立。</p>
21	三重県	はしもと りきお 橋本 力男	<p>＜健康な野菜づくりのための堆肥づくりと育土技術の体系化＞</p> <p>堆肥材料を炭素、窒素、微生物、ミネラルの4種類に分類し、使用目的によって配合割合の異なった堆肥を作る技術を体系化するとともに、育土堆肥と養分堆肥を目的に応じて使い分け、適正な土壌環境を作るための堆肥施用方法を確立。</p>

22	京都府	しもおか きゅうごろう 下岡 久五郎	<p><品種特性及び標高差等の組合せによる高品質茶安定生産技術></p> <p>中山間地の標高差を利用するとともに、11品種の早晚性と被覆方法を体系的に組み合わせることにより、収穫期間を1ヶ月に拡大することを可能にするるとともに、土壌診断、点滴施肥、天敵利用による防除技術を導入し安全・安心な茶生産技術体系を確立。</p>
23	広島県	なかがわ かずよし 中川 和義	<p><青ねぎ、小松菜等の収穫調整作業の省力化></p> <p>従来の空気圧に加え、水圧を活用した皮剥ぎ機を開発したほか、ベルトコンベアとの調整作業のライン化を図り、また、小松菜等のハウス内に移動式調整箱詰めラインを持ち込む等の作業効率の高い技術体系を確立。</p>
24	香川県	ゆたに たかゆき 湯谷 孝行	<p><ハウスみかんの栽培技術></p> <p>昭和45年に初の「みかん加温栽培」に成功するとともに、水分コントロールによる果実の糖集積の促進や温度管理の技術などを組み合わせたハウスみかんの栽培技術体系を確立し、収量安定や品質向上に貢献。</p>
25	愛媛県	やまさき しゅうきち 山崎 章吉	<p><温室みかんの高品質安定7トン採りと省エネ、省力化技術></p> <p>JA温室みかん部会員とともに研究プロジェクトチームを結成し、元気な根や葉を作る技術や生育ステージ毎の適正管理や総合カルテの活用による7トン採り栽培技術を確立するとともに、傾斜地のハウスのフルオープン化技術やサンドイッチ方式の3重被覆方式による新たな省エネ技術などを開発し、省力化、燃料費を削減できる高収量技術を確立。</p>
26	福岡県	かんきょう いなさく けんきゅうかい 環境稲作研究会	<p><地域の生き物を活用し、無農薬栽培を目指す稲作技術></p> <p>水稲へ被害を及ぼすスクミリンゴガイの習性に着目した水管理や丈夫な大苗づくりにより、食害を軽減し除草に利用する技術を確立するとともに、カブトエビ、貝エビ、赤浮草、アオミドリ等の地域の生き物を活用した除草を行うなど無農薬栽培技術体系を確立。</p>
27	佐賀県	くまもと よういち 熊本 洋一	<p><ナシの特別栽培農産物(減農薬無化学肥料)多収生産技術></p> <p>堆肥の投入や有機由来の微量元素資材の利用による土づくり、ナタネやモモのおとり作物を植え、害虫を早期に防除する技術、また、殺虫剤や殺菌剤の防除効果を高めるスピードスプレーヤーの利用技術などを組み合わせ、ナシの特別栽培農産物生産技術体系を確立。</p>
28	長崎県	よしむらひとし 吉村 人志	<p><花のオリジナル品種と環境と人に優しい栽培方法の開発></p> <p>しゅっこんそう 宿根草(アスチルベとワレモコウ)において、アスチルベの株の低温処理による開花技術を独自に開発し、これまで国内では確保できなかった秋冬期の供給を可能とするとともに、ワレモコウの株冷蔵による開花抑制技術を開発し、出荷期間の延長を実現。</p>